

のろし
小さな『復興の狼煙』が上がり・・・

6/22 東日本大震災以降“初”となる “窯だし”の時を迎えます！！

登り窯から狼煙のように煙を高々と上げる様子
2013年6月11日撮影



▲3年前の窯だし当日の登り窯内 2010年6月26日撮影

国営ひたち海浜公園に陶芸の『登り窯』があるのをご存知ですか？

この登り窯、実は東日本大震災で倒壊しましたが、今年に入り、やっと復旧作業を終えました。

1年に1度だけ使用するこの登り窯、2年ぶりの使用となる今年も、当園の“海浜陶芸塾”塾生たちの作品を6月10日から14日まで、丸4日半かけて焼き上げる“登り窯焼成”を行い、小さな復興の狼煙が上がりました。

現在は、登り窯と作品をゆっくりと時間をかけて冷ましている最中で、いよいよ明日、6月22日（土）に、自然豊かな海浜公園ならではの環境を十分に活かした活動を通じ、陶芸の工程を学んだ塾生たちの、2年ぶりとなる窯焼きの作品と間もなくご対面となります。

お問い合わせ先

国営ひたち海浜公園 ひたち公園管理センター 広報担当 平田・服部・田中（やまし）

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼 605-4

TEL: 029-265-9001 (報道関係者の方は 029-265-9004・9005 迄) FAX: 029-265-9339

ホームページ <http://www.hitachikaihin.go.jp> “ひたち海浜公園”で検索。



登り窯とは・・・

登り窯は吹き抜けだった穴窯に何段かの間仕切りを設け、狭間と呼ばれる火道の小孔によって効果的に炎を利用するものです。また、各室の側壁に設けた火口から薪を投入することで、より多彩な焼きが可能となります。国営ひたち海浜公園の登り窯は、正式には穴窯と登り窯の折衷窯です。



震災で倒壊した登り窯の煙突
2011年3月24日撮影

東日本大震災で倒壊した登り窯が復活！！



今年3月に復旧作業
が完了しました。

2013年6月10日撮影

登り窯焼成～待望の窯出し・・・

東日本大震災以降、2年ぶりとなる登り窯焼成。6月10日から14日の4日半（104時間）、燃料となる松薪 1,000束をくべ続け、窯の火を絶やすことなく、徐々に窯内の温度を上げ、最大では約 1,200℃の高温で焼き上げました。

14日以降は約1週間かけて、熱く燃えていた窯と作品を徐々に冷やしていき、そして、いよいよ明日（6月22日（土））、震災以降2年ぶりとなる待望の窯出しを迎えます。

登り窯内にある作品は、第15期海浜陶芸塾で1年間笠間焼について学んだ塾生たちの作品となり、窯だしとともに、終講式を迎えます。



登り窯焼成の様子 2013年6月12日撮影



3年前の窯だし当日の様子
2010年6月26日撮影

第16期 海浜陶芸塾

2013年7月～2014年6月毎週水～土(いずれか一日を選択)

笠間焼の人気作家を講師に迎え、約1年間で陶芸の一連の行程を学びます。土をこねるところから、絵付けや本焼まで、初心者の方でも基礎から始められます。(入園料・駐車料のほか、受講料が必要となります。)

- ① 笠間焼を代表する陶芸作家が、曜日ごとに個性的な塾を展開します。
- ② 初心者から熟練者、そして成形から釉薬掛け、本焼きまで様々なご要望にお応えできる塾です。
- ③ 年に1度(6月)、登り窯を使用した本焼きを実施します。薪窯でしか創りだせない作品に挑戦していただけます。

※現在、第16期の水・土曜日の塾生を若干名募集しています。